

28年3月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年3月1日～ 28年3月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
仕入 動向	国産材製材品	△ 7.1	28.6	28.6
	外材製材品	△ 21.4	14.3	7.1
	構造用集成材	△ 16.7	△ 8.3	0.0
消費 動向	国産材製材品	△ 21.4	14.3	14.3
	外材製材品	△ 21.4	△ 7.1	△ 14.3
	構造用集成材	△ 16.7	△ 16.7	△ 8.3
在庫 動向	国産材製材品	0.0	△ 7.1	0.0
	外材製材品	7.1	7.1	7.1
	構造用集成材	△ 8.3	△ 16.7	△ 8.3

・プレカット部材の仕入は、国産材・外材共に3月の減少から、4月、5月は増加に。構造用集成材は3月、4月の減少が、5月は横ばい。

・プレカット部材の消費は、国産材は3月の減少が、4月、5月は増加。外材及び構造用集成材は3ヵ月連続して減少。

・プレカット部材の在庫は、国産材は3月の横ばいが、4月は減少、5月は横ばい。外材は3ヵ月連続してやや増加。構造用集成材は3ヵ月連続して減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	28/3月	4月	5月
受注	△ 14.3	16.7	0.0
加工	△ 21.4	0.0	0.0
受注残	△ 7.1	0.0	△ 14.3

・プレカット工場の受注は3月の減少が、4月は増加、5月は横ばい。加工は3月の減少が、4月、5月は横ばい。

・受注残は3月の減少が、4月は横ばい、5月は再び減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・国産材製材品の出荷は少なめ、外材は順調。消費は低調。在庫の増加は変わらず。
- ・2月より仕入は多めにするが、本格的な仕入は来月以降。国産材から消費は回復していくが、昨年と比較して回復のペースはゆるやか。外材製材品は消費が少ないため、在庫増。国産材製材品のみ安定。
- ・ホワイト集成柱の納入が送れ気味。

(受注動向)

- ・沿岸部を中心に低調ながらも動きが出てきている。
- ・受注状況は良くない。
- ・4月から補助金の関係で増加する可能性があり。
- ・少し動き始めたかも？